

パブリックコメント実施結果

1. 意見集約結果

No.	ご意見（要約）	区の考え方
素案に対する感想について		
1	文言の内容や言い回しは良いと思います。	「しながわ防災区民憲章」を区民に周知していくことで、区民の自助・共助の重要性と次世代への継承を伝えていければと思います。
2	しながわ防災区民憲章（素案）について、趣旨に賛同します。	
3	概ね、素晴らしい憲章だと思います。	「しながわ防災区民憲章」を広く周知していくことで、区民一人ひとりの防災意識を高め、自助・共助の重要性と次世代へと引き継いでいく決意について区民の皆さまと共に共有してまいります。
4	品川区の防災リーダーに、車椅子、視覚障害、聴覚障害など、障がいのある方を選出して欲しいです。	多様な方が品川区防災リーダーとなれるよう、区として啓発に取り組むとともに、各防災区民組織と連携してまいります。
素案全体に対する意見		
5	最後の「私」「私たち」が強調されるように、最初に「私」「私たち」を加えるとよいのではないかと思います。	「私は～」を最終段落の最初にすることで、より「自分ごと」という意識を強調しました。
6	他の自治体の模倣。フレーズが異なっているが、構成が完全に酷似しているのはリスクあります。	「しながわ防災区民憲章」の作成にあたり、先行自治体である横浜市、半田市、釜石市の事例を参考といたしました。しかしながら、4つの柱「備える」「あいさつする」「伝える」「行動する」は、それぞれ「自助」「共助」「継承」「行動変容」を表しており、「品川区災害対策基本条例」の理念を踏まえた構成です。他自治体の構成とは異なるものであり、「品川区らしさ」を表現しています。
7	各項目の小見出しはもう少し強調したほうが分かりやすいと思います。	文字サイズを変更することで、小見出しを強調し、より分かりやすくいたしました。
8	憲章に使われています「私」はひらがなにしてお読みは品川区民憲章と同じ「わたくし」はどうでしょうか。	区民の皆さまが読まれた時でも分かりやすいように憲章を作成いたしました。なお、憲章の内容について、日本語学の大学教授にも校閲をいただいております。
9	各項目の最終文言は同じトーンにしてはどうでしょうか。	各項目の最終文言を「私は～する ～するため」に統一いたしました。
10	東日本大震災を経験したうえで記載された釜石市防災市民憲章は概念や標語レベルでも覚悟と教訓が伝わってくるが、問題意識が曖昧で切迫感に欠ける印象を受けるため、横浜市のように具体的な行動指針を併記するのが望ましいと考えます。	他自治体の事例を参考に、具体的な行動を示す「行動指針」を作成いたしました。「行動指針」により、憲章の理念だけではなく、行動変容までつなげられるよう、しっかりと取り組んでまいります。
11	憲章であれば、一つひとつの文章が「私は（私たちは）」で始まる内容であるべきなのに対し、「災害はいつ起こるか分からない」などの説明文などが混ざっているため、インパクトに欠けている印象があります。	各項目の最終文言を「私は～する ～するため」に統一し、「自分ごと」として捉えていただくよう表現を強調いたしました。
12	この限られた文字数に「守る」が3回も出てくるのが気になります。	4つの柱「備える」「あいさつする」「伝える」「行動する」について、それぞれ「守るため」「つながるため」「引き継ぐため」「乗り越えるため」と文末の表現を修正いたしました。
13	本素案には「品川区」「品川」「しながわ」の三つの表記が混在しています。	前文の品川区の地理的要素については、「行動指針」に記載することといたしました。また、「行動する」の最終文言を「私たちは行動する ともに乗り越えるため」に修正いたしました。これにより、憲章の本文に「品川区」「品川」の表記が混在することはなくなりました。
14	「支えあい」と「助け合う」で、「あう・合う」の表記が混じっているが統一しないのでしょうか。	前文の品川区の地理的要素については、「行動指針」に記載することといたしました。これにより、憲章の本文に「あう」「合う」の表記が混在することはなくなりました。
15	「行動する」の中に「備える」「あいさつする」「伝える」が含まれているように思います。	4つの柱「備える」「あいさつする」「伝える」「行動する」は、それぞれ「自助」「共助」「継承」「行動変容」を表しております。「自助」「共助」「継承」の理念を自分ごととして捉え、「行動変容」につながることから、「行動する」には、他の3つの柱の要素が含まれています。
前文について		
16	過去の災害や品川で特徴的に起こりうる災害に触れ、課題を明文化したほうがよいと思います。	「行動指針」に過去の災害や品川で特徴的に起こりうる災害について記載するとともに、区民の皆さまがとるべき行動について整理しました。
17	前文に記載の品川区の地理的特性について、必要ないと思います。	品川区の地理的特性については、区内の各地区によって想定させる災害の種類と被害が異なることをイメージしていただくものです。こちらは、憲章の本文ではなく、「行動指針」に記載することといたしました。

No.	ご意見（要約）	区の考え方
本文の表現について		
18	防災のためにつながるわけではなく、よりよいまちにするためにつながるので、「いざという時は」でなく「いざという時にも」とするとよいのではないのでしょうか。	しながわ防災区民憲章は、区民一人ひとりの防災意識を高めるためのものです。そのため、災害発生時を想起する表現として「いざという時は」といたしました。
19	過去に地元で起こった災害を知らない区民が多いので、「過去の災害から多くを学んだ」ではなく、「過去の災害から多くを学ぶ」とすべきだと思います。	「過去の災害」には、東日本大震災や能登半島地震なども含まれており、品川区での災害に限定しておりません。自らが被災していなくても、私たちは多くの教訓を学んでいます。その教訓を次の世代に伝えることの重要性について表現しています。
20	「訓練に参加して 地域とつながろう」とあるが、訓練だけだとあまり参加する気が起こらないと思うので、「訓練に参加し 楽しく地域とつながろう」としてはいかがでしょうか。	「訓練」には、地域の防災イベントなど、楽しく参加できる催しも含まれております。具体的な内容は「行動指針」に記載させていただきました。
21	行の文末は「行動する」として他とそろえるべきではないのでしょうか。	各項目の最終文言を「私は～する ～するため」に統一し、「自分ごと」として捉えていただくよう表現を強調いたしました。
22	「地域とつながる」「地域とつながろう」で内容が重複しています。	共助の取組を進めるためには「地域とつながる」ことは重要です。「あいさつする」では地域との弱いつながりやを、「訓練に参加して」では地域との強いつながりやを表現しており、つながりの強さの違いを表現しています。
23	「備えることは特別なことじゃない」に違和感ありました。「特別なことじゃない」ではなく「備えることを日常の中に取り入れよう」に修正したらどうでしょうか。	「特別なことじゃない」には、日常の中に取り入れるという意味も含まれております。「備える」についての具体的な内容は「行動指針」に記載させていただきました。なお、憲章の内容について、日本語学の大学教授にも校閲をいただいております。
「あいさつする」について		
24	挨拶を区民に求めるのは、価値観の強要ではないかと思えます。	
25	「あいさつ」を強いることについて、道徳観を押し付けることに強い違和感があります。	しながわ防災区民憲章は、区民の皆さまのご意見に基づいて作られた憲章です。「あいさつする」ことの重要性についても、多くのご意見をいただきました。また、平成28年の熊本地震では、日ごろあいさつしかしていなかった住民同士が、災害時には助け合う関係になったといわれています。このようなことから、「あいさつする」といたしました。
26	「あいさつする」の部分ですが、近年、「声掛け」が問題になるケースもあります。「声掛け」が発生したときに区の防犯メールが来たこともあるため、そういったことを含め、「あいさつ」の部分も再度検討してはいかがでしょうか。	
27	「地域とつながるため 私はあいさつする」とあるが、つながることは手段なので、目的にした方がよいので、「支えあえるまちにするため 私はあいさつする」としてはいかがでしょうか。	「共助」は、地域や身近にいる人どうしと一緒に取り組むことであり、そのことを含めて、しながわ防災区民憲章では「地域とつながる」と表現しています。なお、憲章の内容について、日本語学の大学教授にも校閲をいただいております。
28	「あいさつから始まる関係性を築く」との意味かと思うが、「あいさつする」だけでは弱いため、「つながる」のほうが良いと思います。	しながわ防災区民憲章は、区民の皆さまのご意見に基づいて作られた憲章です。「あいさつする」ことの重要性についても、多くのご意見をいただきました。また、平成28年の熊本地震では、日ごろあいさつしかしていなかった住民同士が、災害時には助け合う関係になったといわれています。このようなことから、「あいさつする」といたしました。
自助・共助に関する意見		
29	防災について自助、共助だけではうまくいかないため、行政を上手く活用するのも区民の務めであり、自助、共助、公助の連携が重要であると思います。前文の「自助および共助」を、「自助、共助および公助」としてはいかがでしょうか。	
30	区民憲章の素案は自助・共助のみが大きく強調される内容で「公助」の言葉がありません。自助・共助を前面に押し出すあまり、予防対策で住民の生命と財産を守るという自治体の重要な役割が消えてなくなっていることは問題です。区民憲章に「被害を未然に防ぐ予防対策としての公助」、「自助・共助を後押しする公助」の役割も記載すべきです。	しながわ防災区民憲章は、区民一人ひとりの防災意識を高め、「自助・共助」の重要性を再認識し、次世代へと引き継いでいく決意について表したものです。「公助」につきましては、区として引き続き、区の責務である公助の各種取組をしっかりと進めてまいります。
31	「私たちの品川は 私たちが守る」に違和感を覚えます。防災の区民憲章で、自助・共助の重要性を次の世代に引き継いでいくのは理解できるが、品川区として自助・共助で守るべきなのは何かはわかりません。区民が自助・共助で守るべきなのは少なくとも「品川」ではないと思います。	
32	「区にのみ頼るのではなく、自助・共助で住民が各々備えて、住民同士助け合って頑張り」という内容なのに、最後に「私たちの品川は 私たちが守る」とあえて言われるというのは矛盾を感じます。	「行動する」の最終文言を「私たちは行動する とともに乗り越えるため」に修正いたしました。
33	「私たちの品川は 私たちが守る」とあるが、大災害が起きた際、自助・共助は必ずしも区単位で行われるわけではないと思います。	

No.	ご意見（要約）	区の考え方
要配慮者について		
34	備蓄で劣後されがちな乳幼児、女性、ご老人の記載を行ってほしいです。	憲章にある「あなた」には、家族やパートナー、ペットなど、一人ひとりが大切に思う対象を表しており、「乳幼児、女性、ご老人」については「あなた」という表現に含まれております。「乳幼児、女性、ご老人」など配慮が必要な方の命を守ることの重要性についても、しっかりと啓発してまいります。
35	独居のお年寄りが、災害発生時には最もケアが必要になります。平時は問題ないかと思いますが、平時から「備える」ことが必要であることは言うまでもありません。そこで、「備える」において、そのようなお年寄りや、障がい者の方の見守りも加えた方がよいかのではないのでしょうか。	
36	認知症、障がい、他配慮が必要な人を捨て置かないようにし、防災訓練に参加してもらうためにも、日頃の地域祭りやイベント時から当人と家族へ積極的に声かけするようにすべきだと思います。	

2. 各意見に対する対応

- (1) 素案全体に対する意見
 - ・文末の統一や強調する部分を明確にしたほうが良い。
 - 各最終文言は倒置法により「私は～する ～するため」に統一し、「自分ごと」して捉えていただくよう表現を強調いたしました。
- (2) 前文について
 - ・地理的特性は必要ないと思う。
 - 前文を整理し、地理的特性は「行動指針」に記載するよう調整を行いました。
- (3) 自助・共助に関する意見
 - ・自助・共助で守るべきなのは少なくとも「品川」ではないと思う。
 - 「行動する」の最終文言を「私たちは行動する ともに乗り越えるため」に修正いたしました。
- (4) 要配慮者について
 - ・要配慮者についても記載したほうが良い。
 - 憲章本文での「あなた」とは家族やパートナー、ペットなど、一人ひとりが大切に思う対象を表しています。
- (5) その他
 - その他のご意見は、「行動指針」に記載するよう調整を行いました。